

平成25年度 科学研究費助成事業（特別推進研究）
研究進捗評価 現地調査報告書

研究課題名	神経ダイナミクスから社会的相互作用に至る過程の理解と構築による構成的発達科学
研究代表者名 (所属・職)	浅田 稔 (大阪大学・大学院工学研究科・教授)

【評価コメント】

本研究は、ニューロンレベルのミクロな活動と人間レベルのマクロな行動とをつなぐロジックを構築し、それによって人間の認知発達過程を明らかにしようとする意欲的なものである。特に、身体を考慮した自他認知の獲得過程を理解しようとする、独創的なものとなっている。研究目標を達成するために、脳発達シミュレーション、脳機能イメージング、行動計測・心理実験、ロボットプラットフォーム開発の4テーマを、互いに協調しながら遂行している。胎児の動きのシミュレーションと胎児ロボットの開発、対乳児行動と発達との関連、乳幼児と母親の脳機能イメージングの同時計測、発達シミュレーションのための子供ロボットの高機能化など、順調に研究をスタートさせている。行動に重きが置かれており、知能との関連がやや弱い部分もあったが、従来の人工知能研究とは一線を画したものとなっている。

今後は、これらのテーマ研究について互いに連携を取りながら発展させ、人間の認知発達過程の解明に寄与することを期待する。

さらに、脳科学、工学、心理学といった、異なる分野の研究者が協力して研究を進めていく体制も良好に構築されており、特に、若手研究者が意欲的に研究している様子は印象的で、若手研究者の育成という側面からも評価できるものであった。

なお、購入した備品類の利用は、順当であった。